

2024 年度 「学会論文賞」の報告

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るため、2009 年に「学会論文賞」が設立されました。

この賞は、医療経済学会雑誌である「医療経済研究」に掲載された研究論文の中から与えられるものであり、賞状のほか副賞として賞金(提供:医療経済研究機構)が贈られます。

2024 年度は学会論文賞については、2025 年 9 月 6 日開催された医療経済学会 総会にて、以下の通り報告されました。

「生活習慣病に関する総合的な治療管理が避けられる入院に与える影響:後ろ向きコホート研究」

森田 和仁 氏 (東京大学大学院 医学系研究科)

授賞理由:

本研究は、超高齢社会における医療費抑制と質向上の両立という喫緊の課題に対し、プライマリ・ケアの価値を定量的に実証した優れた研究である。高次元傾向スコアマッチングを用いた厳密な疫学手法により、生活習慣病管理料が特定疾患療養管理料と比較して慢性 Ambulatory Care Sensitive Condition(ACSC)入院を有意に減少させることを明らかにした。既存の診療報酬制度内での比較により直接的な政策示唆を提供し、医療の持続可能性に資する重要なエビデンスを創出した点を高く評価する。

「日本の医薬品市場における広告の利益率への効果分析」

沢田 拓哉 氏 (東北大学大学院 経済学研究科)

授賞理由:

本研究は、医薬品市場における広告効果を実証的に解明した先駆的研究である。52 社の有価証券報告書データを丹念に収集し、固定効果モデルによる厳密な分析を通じて、広告支出が売上高・営業利益に与える効果を定量化した。医療用・一般用医薬品の差異を明確に示し、広告ストックの概念を導入した分析手法は学術的に高い水準にある。単著での完成度の高い研究として、若手研究者の独立した研究遂行能力と医薬品市場分析への新たな視座を提供した貢献を評価する。

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るべく 2009 年に学会論文賞が設立されました。また 2012 年からは、若手研究者の研究奨励を図るべく、新進気鋭の若手による意欲的な論文を評価してきました。次年度以降、若手諸氏の意欲的投稿を引き続き期待するとともに、わが国の医療経済・医療政策研究の発展につながる質の高い論文の投稿をお願い申し上げます。

『医療経済研究』編集委員長 野口 晴子